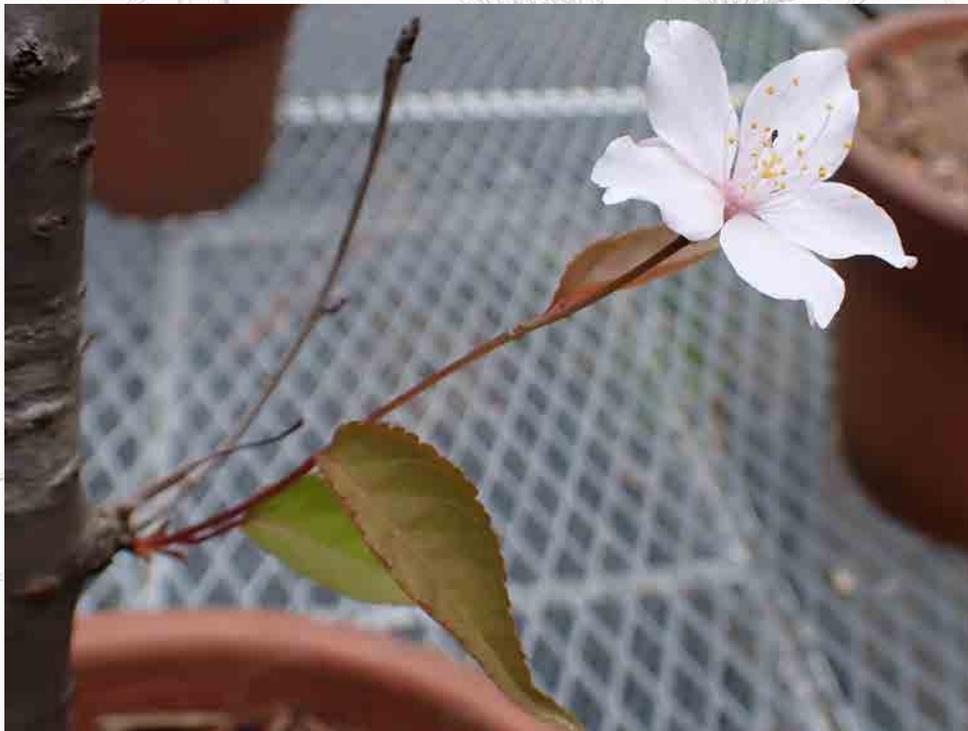


ミニ観察会 「小石川植物園のサクラ」開催報告

小石川植物園技術専門職員 清水淳子

4月4日当日は天候に恵まれ、青空のもと、企画展「牧野富太郎と小石川植物園」関連イベントミニ観察会を開催することが出来ました。この日はちょうど前日にNHKの朝ドラ「らんまん」がスタートしたばかり。主人公のモデル牧野富太郎の郷里である高知県佐川で生まれた‘稚木の桜（ワカキノサクラ）’の花がちょうど見頃のタイミングでした。

サクラにまつわる牧野博士のエピソードをお話をしながら園内を回り、花盛りの‘普賢象’、‘一葉’、‘仁科蔵王’などの花を手にとって肉眼やルーペで観察していただきました。最後の質問時間にも良い質問をたくさんいただき、あっという間の1時間半でした。



‘稚木の桜（ワカキノサクラ）’

Cerasus jamasakura
(Siebold ex Koidz.) H.Ohba
‘Humilis’

発芽後2、3年で花を咲かせる特徴を持つ（＝幼形開花型の）ヤマザクラ。牧野富太郎が高知県佐川町で標本を採取して学名を記載した。花の基部に葉がついた混成枝をつける。



‘宮胡蝶（ミヤコチョウ）’（写真は原木の花）

Cerasus jamasakura
(Siebold ex Koidz.) H.Ohba
‘Miya-kocho’

栃木県宇都宮市内の山で渡辺豊氏により発見され、2023年に名前がつけられた幼形開花型のヤマザクラの栽培品種。植物園で接ぎ木苗による系統保存をしている。‘稚木の桜’と異なり、花の基部に葉はつかない。



‘普賢象（フゲンゾウ）’

Cerasus Sato-zakura Group
‘Albo-rosea’

室町時代から名前が記されている栽培品種。2本の雌しべが葉状に変化（＝葉化）している様子を普賢菩薩が乗る白象に見立てたのが名の由来。牧野富太郎が学名‘Albo-rosea’を提唱した。



‘一葉（イチヨウ）’

Cerasus Sato-zakura Group
‘Hisakura’

サトザクラの栽培品種。名前は雌しべが一本葉化して突き出ていることに由来する。



‘仁科蔵王（ニシナザオウ）’

Cerasus Sato-zakura Group
‘Nishina-zaou’

サトザクラの栽培品種。理科学研究所がサトザクラの栽培品種‘御衣黄’に重イオンビームを照射して作りだした。淡い黄緑色の花弁に緑色の線が見られ、花が終わる頃に花弁の中心部が赤くなる。



‘染井吉野（ソメイヨシノ）’

Cerasus x yedoensis (Matsum.)

A.Vassiliev ‘Somei-yoshino’

エドヒガンとオオシマザクラの
種間雑種の栽培品種。1901年小
石川植物園初代園長松村任三が
小石川植物園で採取したタイプ
標本をもとに学名を記載した。



‘水玉桜（ミズタマザクラ）’

Cerasus ‘Manadzuru-littorea’

サクラ研究家の川崎哲也が神奈
川県真鶴半島で発見したサクラ
で、‘染井吉野’とマメザクラ
が交雑したものと推定される。
川崎は牧野富太郎に師事したこ
とも知られる。



‘染井匂（ソメイニオイ）’

Cerasus x yedoensis (Matsum.)

A.Vassiliev ‘Someinioi’

遺伝学研究所の竹中要が東京都大
島町大島公園の‘染井吉野’の実
生から育成した栽培品種。オオシ
マザクラが交雑したと推定され
る。花には良い香りがある。

これまで日光分園で野生のサクラを中心としたガイドツアーを開催させていただいていましたが、小石川本園でのご案内をさせていただくのは今回が初めてでした。少人数制だったため、残念ながら定員がすぐ埋まってしまい、参加できなかった方々には深くお詫び申し上げます。またの機会をいただければ、今回とは開花期を違えたサクラをご紹介できればとても嬉しいです。これからもどうぞよろしくお願いたします。

